

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4093100032
法人名	株式会社 創生事業団
事業所名	グループホーム イコロの里
所在地 (電話番号)	福岡県春日市平田台1丁目138-2 (電話) 092-595-8681

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年1月21日	評価確定日	平成21年2月19日

【情報提供票より】(平成21年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	15人, 非常勤 4人, 常勤換算 15.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	管理費(30,000円)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.8歳	最低	70歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	またけ内科胃腸科クリニック / 白本歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

イコロとはアイヌ語で「宝物」を意味する。住宅街の中に広い敷地を有し、同一法人の特定施設・デイサービスが併設している。敷地は広く日当たりがよく緑も多く、自然を感じながら散歩や無農薬野菜の収穫を楽しむことができる。管理者・職員も明るく、入居者とのコミュニケーションを大切に、入居者はのびのびと過ごせると家族には好評である。管理者・職員は、入居者本位の柔軟な支援を目指し、日常生活のさまざまな場面で、個々の能力を活かした役割を發揮する場面をつくり、暮らしに安らぎと潤いを感じていただけるように日々取り組んでいる。日々の業務よりも、より多くの時間を入居者に寄りそい、入居者本位の暮らしが実現できるように取り組んでいる。開設して1年が過ぎ、課題が明確になってきており、今後の取り組みに大きな期待がもてるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に記入し、外部評価の意義を理解している。ミーティングでは、職員全員で意見を出し合い、日頃のケアやサービスを振り返る機会として活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。家族・自治会長・民生委員・春日市高齢課職員・地域包括支援センター職員等の参加があり、活動状況・ヒヤリハット等の報告と意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。ホーム便り「イコロ便り」では、運営推進会議の開催の案内や開催後の報告等を行い、運営推進会議の意見は今後の運営に活かしていくことを伝えている。家族に運営推進会議の意義を伝え、家族の参加を活かそうと努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	ホーム便り「イコロの里」にて運営推進会議の参加を家族に案内し、また、会議の報告も行っている。運営推進会議で家族の意見や意向を把握し、意見交換を行いながら、運営面へ反映していきたいと考えている。意見箱を設置しているが、家族が訪れた際の会話の中から、意見や苦情等を記録に残し、運営に反映させる努力もしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	同法人合同の夏祭りは、地域の方の参加や家族・小学生の応援があり、一大イベントとして大成功を収めている。また、地域との交流として、食事会・バーベキュー等の企画も立て積極的に交流を図っている。地域の行事への参加はもとより、回覧板でグループホームを理解していただくためのPR活動も行っている。また、近隣の小学生との定期的な交流会・中学生の職場体験等、子供たちとのふれあいが入居者の笑顔につながっている。今後は更に廃品回収や老人会の活動など地域活動への積極的な参加を予定している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「愛のある里・笑顔の絶えない里・安らぎのある里」という独自の理念を掲げ、入居者の意見・意思を尊重したサービスを提供し、また、地域の中での暮らしを「里」として位置づけ、地域密着型サービスとしての役割を明確に打ち出している。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	伝えやすいものにしたい、という想いのもとに創られた独自の理念が、玄関に入ると正面に掲げてある。ユニット名も理念から「愛」、「笑」と名付けることで理念の共有に努めている。開設後1年を経過し、ミーティングや研修会などを通じて、更に理念について話し合う機会を持つことを予定している。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	同法人合同の夏祭りは、地域の方の参加や家族・小学生の応援があり、一大イベントとして大成功を収めている。また、地域との交流として、食事会・バーベキュー等の企画も立て積極的に交流を図っている。地域行事への参加・回覧板でのグループホームの理解のPR・近隣の小学生との定期的な交流会、中学生の職場体験等、子どもたちとのふれあいが入居者の笑顔につながっている。今後の更なる交流を期待したい。		今後は、地域活動により積極的な参加を予定しており、取り組みを期待したい。また、地域密着型サービスとして、地域住民を対象とした認知症の勉強会など主体的に地域へ情報発信していくことを期待したい。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	今回、初めての外部評価となる。自己評価は、全職員で記入し、外部評価の意義を理解している。ミーティングでは、職員全員で意見を出し合い、日頃のケアやサービスを振り返る機会として活かしている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。家族・自治会長・民生委員・春日市高齢課職員・地域包括支援センター職員等の参加があり、活動状況・ヒヤリハット等の報告と意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。家族の参加も働きかけ、意見や意向を把握する機会として活かしている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市の高齢課職員を招き、入居者との食事を開催し、その際、ホームの現状報告を行い、情報提供やアドバイスを受ける等、行政との連携に努めている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、制度を利用している入居者はいないが、資料等の準備や相談窓口は案内している。管理者は研修等で理解を高めているが、職員は学ぶ機会が少ないため、今後は、権利擁護の研修情報を把握し、職員参加の研修を実施したいと考えている。		管理者は、職員の研修参加等により、権利擁護の理解を育みたいと考えており、今後の支援できる体制づくりに期待したい。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月1回発行の「イコロ便り」では、日常生活の様子や行事予定等を報告している。家族来訪時には、ケアプラン・金銭管理表・健康状態等を報告している。家族アンケートでは、小さなことでも、その都度、報告があり、また、家族からの相談も会議を開き検討するなど、迅速な対応があり、大きな安心があるとの声が寄せられている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	運営推進会議は、ホーム便り「イコロの里」では家族へ運営推進会議の開催の案内や開催後の報告等を行い、運営推進会議の意見は今後の運営に活かしていくことを伝えている。意見箱を設置しているが、家族が訪れた際の会話の中から、意見や苦情等を記録に残し、運営に反映していく努力をしている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	法人内での異動については行っていないが、離職者が出ないように勤務環境など努力している。やむを得ず離職者が発生した場合には、入居者はもちろんのこと、特に家族にはしっかりと説明しサービスの変更や質が落ちないように努めている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	管理者は採用の際には、直接面接を行い、年齢や性別を問わず、意欲・やる気を重視している。また、無理のない勤務状況に努め、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	管理者は行政が行う虐待に関する研修に参加し、職員に伝達している。人権の尊重は、認知症ケアにとっては、最も重要なことなので、就業時に話しているが、認知症ケアにとって、人権の問題は日々のケアやサービス提供に大きく関わることなので、日々の業務の中での人権に関わる問題等を定期的な研修で学ぶ機会を持つことを期待したい。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	外部・内部での研修計画を立て実施している。参加できなかった職員には、報告書で研修内容を共有するように取り組んでいる。資格取得の研修は、隣接する同一法人の特定施設で行い、ケアの知識・技術を身につける取り組みを行っている。今後は、外部での研修の充実を期待したい。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	春日市の介護支援専門員の交流会で、グループホームの介護支援専門員同士の中で、情報交換・アドバイスなどの交流を行う機会を持っている。今後は、グループホームのネットワーク化など、連携を高める活動に期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には、訪問したり、見学・希望によっては体験入居も行い、自宅での生活状況を把握しながら、家族と相談し、徐々になじんでいただき、コミュニケーションを図りながら、安心して入居していただけるように取り組んでいる。また、入居1ヶ月のケアプランには「なじみの関係づくり」を上げ、職員が意識的に取り組むようにしている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	これまでの暮らしの中で入居者の得意な面を活かし、料理については、もと食進会の経験がある入居者を中心に職員が料理を学び、野菜づくりの得意な入居者には畑仕事を学んだり、入居者が職員の織い物をしてくれたりと日々の暮らしの中で、支えあう関係を大切にしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	アセスメントの一部にセンター方式を採用している。一人ひとりの入居者ごとに「なんでも帳」をつくり、入居者が言ったことや動作など、「こうすれば良いのでは」という記録を全て取っている。また、その方の情報や家族の意向を聞き、本人の思いを把握するように努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居時の本人の思いと家族の思いを基本にセンター方式のアセスメントを参考に担当の職員と話し合って介護計画を作成しているが、本人の思いや意思が介護計画に反映できているかは課題となっており、今後のセンター方式の活用を期待したい。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月ごとに担当者会議を話し合い、「なんでも帳」を参考にしながら介護計画を見直している。また、担当医に照会状の記入をお願いし、医療面についてのアドバイスを求めている。計画の見直しの際には、計画の評価が必要である。特に入居者の表情・言葉・動作の変化など気づいたことが評価の材料になるので、その点に留意し、観察したメモなども取っていくことも必要である。		介護計画の見直しの際の評価をお願いしたい。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	同法人の特定施設やデイサービスとの交流を積極的に行っており、夏祭り等法人のスケールメリットを活かした取り組みを行い、家族や地域の方々に好評である。今後は、法人のマンパワーを活かし、地域への認知症の理解を育む等期待したい。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	協力医療機関から月2回の往診があり、24時間の連絡体制を築いている。歯科についても毎週の往診がある。かかりつけ医の受診の際にも、職員が付き添って受診しており、適切な医療が受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、「どのような最期を迎えたいのか」、本人・家族の思いを尊重し医師と共に話し合っている。現在、ホームでは、重度化に向けて電動ベットを各居室に、浴室には機械浴も導入できるスペースを確保し、「看取り」の環境・体制づくりを行っている。		緊急時や夜間時等、医療的な対応がどこまで支援できるのか、具体的な検討を行いマニュアルや方針を定めていくことが望まれる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	職員には常に入居者に対して「目上の方である。人生の先輩である」ということを念頭におき、入居者への言葉使いや接し方を指導している。記録等の個人情報はステーション以外の持ち出しは厳禁としている。入居者の写真の公表については、本人・家族の了解を得ている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	「その人らしい生活」を送っていただくために、基本的に1日のスケジュールは全く決めていない。基本的に入居者は自由に過ごしていただくことを第一に考え、入浴でも日にち・時間は全く決めていない。その日その日の一人ひとりのペースに合わせ、状態や希望にそって柔軟に対応している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	料理好きな入居者が準備・片づけを行い、自身の能力を発揮している。毎日の食材の買い物・畑の野菜の収穫も入居者と共に、食事に関わるプロセスを職員と入居者で分かち合っている。ミキサー食の方には、まず、普通食の盛り付けを見てもらう等、食事を楽しむための工夫があり、晩酌等も楽しんでいただけるように支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片づけをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴日や時間は決めていない。一人ひとりの生活習慣に合わせて支援しており、毎日入浴する入居者もおられる。入浴は、その時々希望を大切に、個別対応を行っている。現状では必要としていないが、機械浴が導入できるスペースも確保されている。入浴拒否の入居者には、いろんな働きかけの工夫を行い、入浴できるように努めている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	毎日、買物を職員同行で行ったり、ゴミ捨て・洗濯物取り入れや料理・居室の掃除・リネン交換等、日常生活のさまざまな場面で、個々の能力を活かしながら役割を作り出している。歌や書道・野菜づくり等趣味を楽しんでいただくように取り組んでいる。時には、外食や花見等の楽しみを共有している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	毎日の買物は必ず入居者同行で行い、敷地内や敷地外の散歩等、日常的に外出がある。広い敷地の中には、庭園・畑・花壇があり、恵まれた環境を有し、天気の良い日は庭で弁当を食べるなど気分転換を図っている。また、希望に応じてバスハイク等も計画し外出の機会を設けている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関・居室等、鍵はかけていない。入居者によっては15分ごとに所在確認を行う等、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。家族にも鍵をかけないことの意義・リスクを説明し理解を得ている。入居者が屋外に出た場合は、職員が付き添って安全面に配慮している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	スプリンクラーと自動火災通報装置が設置済みである。消防署の協力のもと、同一敷地内にある事業所と合同で、実際に非常ベルを押しての訓練を行っている。地域の参加・協力は課題となっており、今後、地域への協力・参加を依頼する予定である。		災害時には、地域との連携が求められており、夜間を想定した訓練も含め、今後の働きかけに期待したい。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	同法人の隣接する特定施設の栄養士に献立を依頼し、カロリー量と栄養バランスが取れ、季節感を感じていただける食事を提供している。糖尿病がある入居者は医師のアドバイスを受け調整している。食事・水分の摂取状況を毎日記録し、職員が情報を共有している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	玄関を入ると土間があり、リビング・ダイニングは吹き抜けになっており開放感がある造りとなっている。廊下も含め、やわらかな自然光が入り、ゆったりとくつろげる空間となっている。また、和室には掘り炬燵もあり、家庭的な居心地の良い空間が確保されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室の入り口にボックスが設置してあり、思い出の品・手作りの品・写真等を入れることで、部屋の確認ができるようになっている。なじみの家具や仏壇等が持ち込まれ、その人らしい空間づくりがなされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			